

(1) 室津港の大碎破

港

灣

十

年

内務技師 鈴木 雅次  
工學博士

我が國の港灣企業は、過去十年に於て、前代末梢の隆盛を極めた。例へば、従來の大商港に於ける擴張工事が續行せられたものは神戸、横濱、大阪、名古屋、基隆、以下その數は頗る多い。更に小名濱等14港が重要港に新に加へられて、その修築工事が起された。

又多年の懸案であつた中小港灣への國費補助の問題も、遂に最近解決して、今や61港の華々しき起工を見る。

尚ほ下關、銚子以下數十港の大小の漁港工事も始められ、或は戸畑の如き近代的の素晴しき漁港も現はるゝに至つた。

次に工業港として、尼崎崎、新居濱、大阪北港等の大企業が民間に相次ぎて起つた事も新しき傾向として、築港史上に特筆すべき出来事であつた。

又滿洲國の現出と共に、北鮮の羅津に世界的の大築港が起り、之に呼應して、内地の日本海沿岸に於て、連絡港問題が盛んに火の手

を上ぐるに至つた。蓋し此等は、次の十年時代へ引繼ぐべき最大の港灣問題であらう。

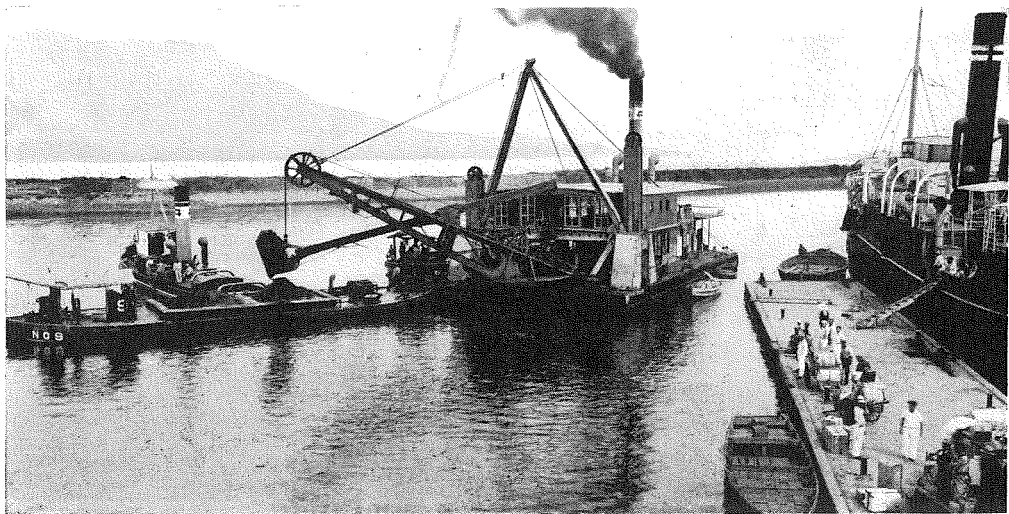
次に築港技術の内容に就て、過去十年の當初に於けるメインイベントは、横濱震災復舊の大工事であつて、あの稀有の難工事が、一年有半の短期間に完了した事は、一つの驚異であつた。

更に丹那の地震に依つて倒壊せられた清水岸壁が、浮力を巧に應用して、迅速に復舊せしめた事も、亦賞賛に値ひする。而て再々の震災に依つて、岸壁の地震計算の理論が、本邦に於て、漸々本格的に完成へ近づきつゝある事も大きな收穫であつた。

但し去る三月三日の三陸大海嘯は、海工技術家に對し、更に新たなる意味の大きな出問を投げかける事となつて、次の十年時代の研究が期待される。

過去十年間に於て、強大なる波力に依つて、破壊させられた防波堤は、室津、網走、串本

(2) 新に活躍せるデツパー 浚渫船 (鹿兒島港)



野、江角その他にも多くあつたが、此等の復舊と對策とに當つて、工事擔任者の苦心は、洵に同情と尊敬とに値する。

従つて、波力計算々式の再吟味が、特に本邦に於て此等の貴き經驗に立脚して、眞劍に考へらるゝに至つた。

漂砂の研究に就て、岩船港の埋没、岩内港の防砂、等は極めて重要な參考資料となつた。又柔弱地盤に於ける工事として、長崎、大阪、神戸等の研究も注目と値する。其の中大阪港の岸壁の後方へ、多數の棚板を列べたものは、洵に珍しき工法であつた。

尙ほ柔弱地盤の計算法は、ベッターソンの理論に依つて、全々風靡された感がある。

鐵筋コンクリートの函塊に就ては、之が構造の種類が多様なると、工事の施工の巧妙なるとに於て、特に世界に冠たるものがある。即ち神戸、横濱、清水、長崎等の岸壁、或は、網走、鹿兒島、横濱などの防波堤等に用ひられたものは、何れも特長多き函塊であつた。

鐵矢板の輸入と共に、之が岸壁の構材とし

て、鹽釜、伏木を始め近年盛んに利用せらるゝ事も、流行の一つである。但し之が海水に於ける腐蝕の問題は、未解決のまゝ後年の研究に残された。又名古屋の如き、獨乙流の棚式岸壁の出現も、本邦としては珍らしきものであるが、耐震的なるが爲め、將來相當に流行するものと思ふ。

次に棧橋の構造に就ても、格段の進歩を見せた。即ち大阪、横濱、鶴見、四日市、七尾、高雄、等に於ける鐵筋コンクリート造のものは、之が構造と施工とに於て、各その特長を誇るに充分である。

最後に浚渫工事に就ては、關門海峽の實積益々擧り、更に、那覇、サイパン等に於ける珊瑚礁の浚渫の難工事も經驗された。一般に此十ヶ年間に於て、特に目立つた事は、デツパー浚渫船の新なる活躍と、サクシヨン浚渫船の能力の甚しき増大とであつた。蓋し此等の傾向は、次の十年時代に入つて、益々著しくなるだらう。 (以上)

(8) 流行の鐵矢板岸壁 (川崎港)

